TOYOTOMI
トヨストーブ

型式 **FIR-18B**
エフ アイアール ビー

自然対流強制通気形開放式石油ストーブ

取扱説明書

このたびは本品をお買い上げいただきましてまことにありがとうございます。

■ご使用になる前に、必ずこの「取扱説明書」をお読みいただき、正しく使用してください。この「取扱説明書」は、保証書と共に大切に保管しておいてください。

■同梱のアフターサービス登録カードは必ずご投函ください。

もくじ

お使いになる前に

使いかた

点検・手入れ・アフターサービス

V11-1

5668001301

安全のために必ずお守りください

●お使いになる人や他の人への危害と財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しく使用するために、必ずお守りいただくことを説明しています。

●ここに示した表示は、誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。

表示	内容
⚠危険(DANGER)	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡、重傷を負う危険、または火災の危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。
⚠警告(WARNING)	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意(CAUTION)	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

●お守りいただく内容を、次の絵表示で区分しています。

絵表示	内容
	この絵表示は、「禁止」されている内容です。
	この絵表示は、「注意」していただく内容です。
	この絵表示は、必ずしていただく「指示」内容です。

●説明文中の**「お願い」**事項は、本機を誤りなく正しくお使いいただくための内容が記載されています。

⚠危険(DANGER)

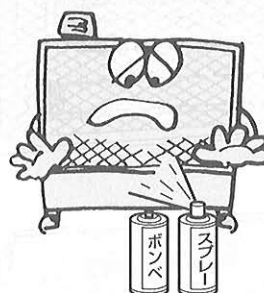
★ガソリン使用禁止

ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。
少量の混入でも、火災の原因になります。

ガソリン禁止

⚠警告(WARNING)

★スプレー缶厳禁

スプレー缶やカセットこんろ用ボンベなどを、ストーブの上や前に放置しないでください。
熱で缶の圧力が上がり、爆発し、危険です。

禁止

⚠警告（WARNING）

★換気必要

- 換気せずに使用しつづけないでください。酸素が不足すると、不完全燃焼し、一酸化炭素などが発生して中毒になるおそれがあります。
- 使用中は必ず１時間に１～２回（１～２分）換気して、新鮮な空気を補給してください。
（窓の凍結、地下室など）換気が充分におこなえない場所では、使用しないでください。

★衣類の乾燥厳禁

衣類などの乾燥には使用しないでください。
衣類が落下して火がつき、火災の原因になります。

★寝るとき消火

寝るときや外出するときは、必ず消火していることを確認してください。
予想しない事故が発生するおそれがあります。

★カーテン、可燃物近接厳禁

カーテンや燃えやすいもののそばなどでは、使用しないでください。
毛布やふとんなどを近くに置かないでください。
火災が発生するおそれがあります。

★可燃性ガス使用厳禁

ストーブを使用している部屋で、可燃性ガスが発生するもの（ガソリン、ベンジン、シンナー）、スプレーを使用しないでください。
火災や故障の原因になります。

★やかんのせ禁止

やかんなどをのせないでください。
振動や接触によって、やかんの落下や、やかんの熱湯がこぼれ、やけどのおそれがあります。

⚠注意(CAUTION)

★給油時消火

給油は、必ず消火して、本体温度が充分下がってから、火の気のないところでおこなってください。
火災のおそれがあります。

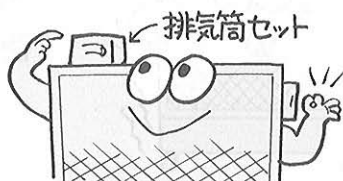
★居室内給油禁止

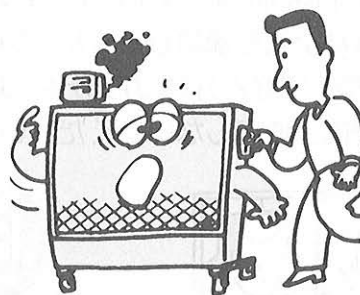
給油は、必ず火の気のないところでおこなってください。
火災のおそれがあります。

★空気取入口をふさがない

衣類、紙などで空気取入口をふさがないでください。
空気取入口をふさぐと、異常燃焼や火災の原因になります。

★排気筒セットを取り付ける

必ず排気筒セットを取り付けてください。
取り付けないと、排気筒に異物が入って異常燃焼したり引火のおそれがあります。

★異常時使用禁止

におい、すすの発生、炎の色など異常を感じたときは使用しないでください。
運転スイッチを「切」にしてください。
異常燃焼のおそれがあります。

- 点火不良で、何回も点火操作をした後に点火すると、バーナー内にたまった灯油が燃焼して炎が大きくなり、すすが出て異常燃焼します。このようなときは、あわてずに、運転スイッチを「切」にし、たまった灯油が燃えつきるまで待ってください。電源プラグをコンセントから抜かないでください。
- 万一ストーブから火が出たり、床などに火がついたときは、あわてずに消火器で消火してください

★燃焼中移動禁止

火のついたまま移動させないでください。
やけどのおそれがあります。また、転倒すると火災の原因になります。

- キャスターのストッパーを押してロックし、燃焼中にストーブが移動しないように固定してください。

⚠注意（CAUTION）

★ほこりの除去

ごみ、ほこりは、週１回以上必ず掃除してください。
ごみ、ほこりなどがつまると、異常燃焼のおそれがあります。

★指や異物を入れない

ガードの中に、指や異物を入れないでください。
火災や異常燃焼、故障の原因になります。

★分解修理・改造の禁止

故障、破損したら、使用しないでください。ストーブは絶対に改造して使用しないでください。
不完全な修理や改造は危険です。

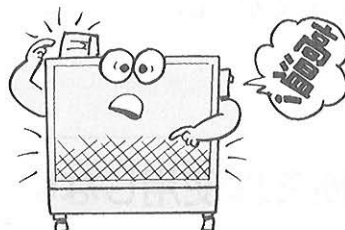
★電源コードを傷めない

電源コードに無理な力を加えたり、傷付けたり束ねたり、物をのせたり加工しないでください。
また、電源プラグを抜くときは、コードを持って引き抜かないでください。
電源コードが破損し、火災や感電の原因になります。

★電源プラグは確実に差し込む

電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。
（また、傷んだプラグやゆるんだコンセントは使用しないでください。）
火災の原因になります。
ぬれた手での抜き差しはしないでください。
感電の原因になります。

★高温部接触禁止

燃焼中や消火直後は、高温部、天板やガードなどに手などふれないでください。
やけどのおそれがあります。

★ふく射熱に長時間あたらない

ふく射熱に長時間あたると、低温やけどや脱水症状になるおそれがあります。

★保管時にしていただくこと

長期間使用しないとき、または保管するときは、必ず灯油を抜き電源プラグをコンセントから抜いてください。
傾けたり、横倒しの状態では保管しないでください。抜き取れなかった灯油が漏れたり、火災のおそれがあります。

★長期間使用しないときは電源プラグを抜く

長期間使用しないときは電源プラグをコンセントから抜いてください。
火災や予想しない事故の原因となります。

★電源プラグのお手入れをする

ときどきは電源プラグを抜き、ほこり（及び金属物）を除去してください。
（ほこりや異物がたまると湿気などで絶縁不良になり）火災の原因になります。

⚠注意(CAUTION)

★お子様やお年寄りのご使用に注意

お子様やお年寄り、体のご不自由な方がお使いになる場合は、やけどや、部屋の換気などについて、周囲の人が充分に注意してください。

★廃棄するとき

ストーブを廃棄処分するときは、必ず油タンク内の灯油を抜き取ってください。(19ページ参照)
灯油が入ったまま廃棄するとリサイクルの際思わぬ事故になるおそれがあります。

★次の場所では使用しない

使用禁止

火災や予想できない事故や故障の原因になります。

水平でない場所、不安定な場所

- 傾斜した場所や振動の激しいところでは、使用しないでください。
  対震自動消火装置が誤作動することがあります。
- しっかりしたじょうぶな床面で使用してください。
- 不安定な台上で使用しないでください。転落するおそれがあり危険です。

暖炉などストーブが囲われる場所

- 暖炉や押入れに入れての使用など、特殊な使い方をしないでください。
  火災の原因になります。

ほこりや湿気の多い場所

- 空気を取り入れる空気取入口が目づまり状態になり、異常過熱や異常燃焼を起こし、事故になる危険性があります。

可燃性ガスの発生する場所、またはたまる場所

- 爆発や火災の原因になります。

理・美容院、クリーニング店などスプレーや化学薬品を使う場所

- 理・美容院、メッキ、塗装工場、電子部品組立工場、繊維関係工場などでは使用しないでください。
  器具の故障や、腐食性ガスの発生により金属や鏡、ガラスなどを傷める原因となります。
- 石油ストーブで暖房する部屋ではシリコーンを配合した枝毛用コート液やヘアートリートメント(枝毛用)は点火ミスや、途中消火など故障の原因になりますので使用しないでください。

温室・飼育室など人のいない場所

- 予測できない事故が発生するおそれがあります。

風のあたる場所、部屋の出入口(屋外)

- 風のあたるところでは使用しないでください。
  炎が出て危険です。
  掃除機の排気にも注意してください。
- 部屋の出入口など人の通るところ、人がぶつかったりつまずく場所で使用すると、転倒して事故や火災が起きるおそれがあります。

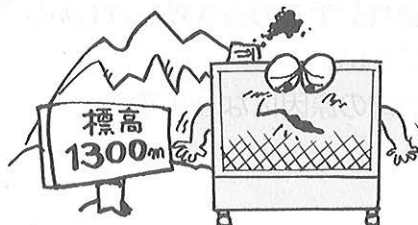
不安定な物をのせた棚などの下

- 落下物により火災が起きるおそれがあります。

直射日光のあたる場所、温度の高い場所

- 異常燃焼を起こすおそれがあります。

高地(1300m以上の場所)

- 酸素濃度が薄いので不完全燃焼します。
- 800～1300 mでは調整が必要ですので販売店までお問い合わせください。

⚠注 意（CAUTION）

★次の場所では使用しない

火災や予想できない事故や故障の原因になります。

せまい部屋では使わない

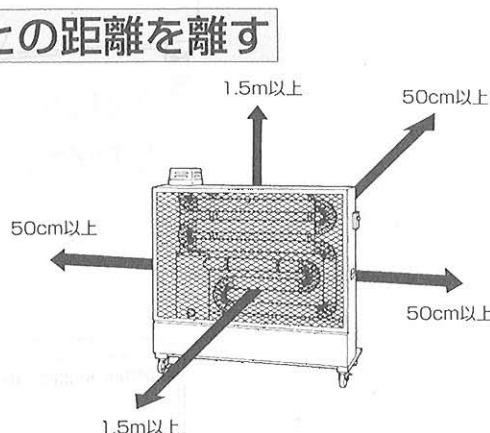
- この製品は広い部屋の暖房に使用するストーブです。暖房出力に見合った部屋で使用してください。せまい部屋で使用すると、室温が上がりすぎたり、酸素不足により異常燃焼のおそれがあります。

換気が充分におこなえない場所

- 窓の凍結などによって、換気が充分におこなえない場所では使用しないでください。

★可燃物（木壁、合板、ふすまなど）との距離を離す

距離

- ストーブ上方の棚などとの距離は必ず1.5 m以上あけてください。
- 上方の棚などからの落下物がないようにしてください。
- 特に、カーテンなどがストーブにふれないようにしてください。
- 家具などからは充分な距離をとってください。（熱で変形や変色、自然発火することがあります。）

お 願 い（NOTICE）

★シリコーン配合製品を使用しない

- 石油ストーブで暖房する部屋では、シリコーン配合製品（ムース・クリーム・液体スプレーなどの枝毛用ヘアトリートメント類、つや出し剤や、防水スプレーなど）を使用しないでください。点火ミス・途中消火などの故障の原因になります。

★灯油の廃棄

- 灯油の廃棄処分は、灯油をお買い求めになった販売店にご相談ください。

使用する場所

★効果的に使用するために

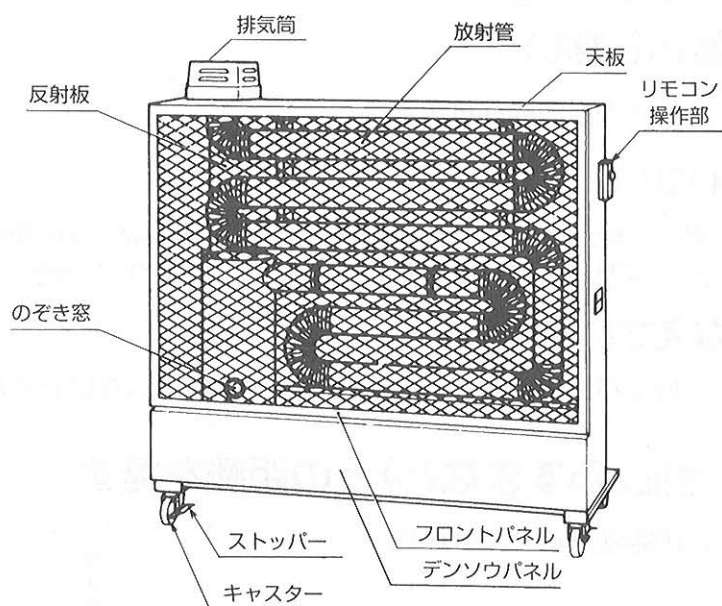
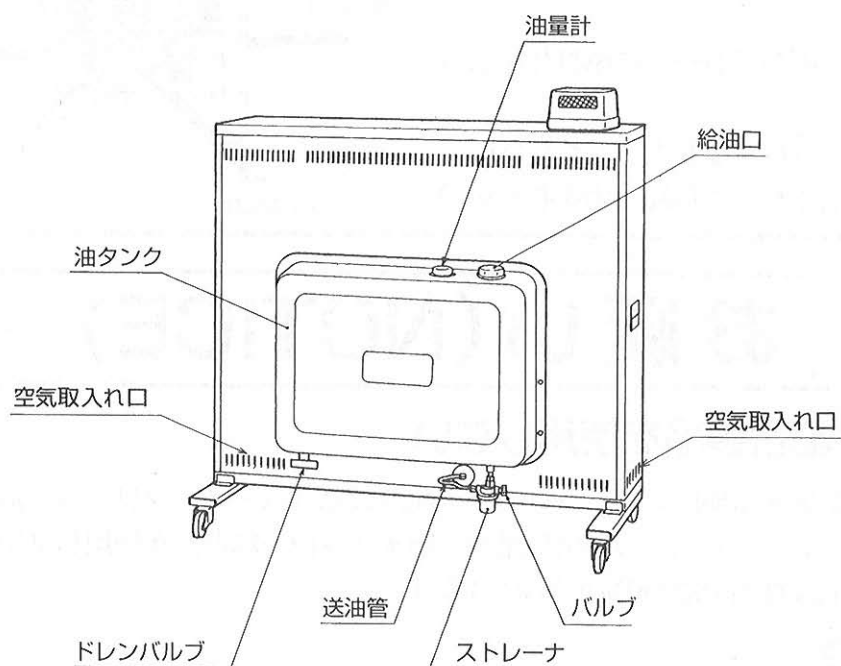
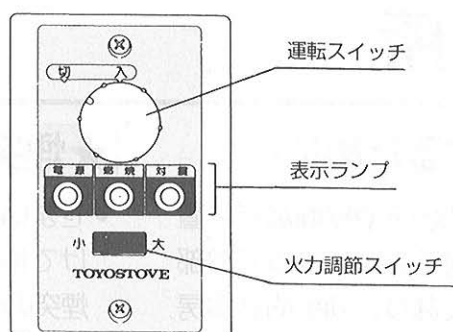
- なるべく外気に接する窓の下や壁面などに置いていただきますと、対流効果によってお部屋の温度のムラが少なくなり、効果的な暖房ができます。

★煙突の取付け

- せまい部屋、換気の悪い部屋では、煙突を取り付けて使用し排ガスを屋外へ排出してください。煙突の取り付けは、当社指定の「排気ジョイント」（別売品）、「排気筒」（別売品）を使用してください。

各部のなまえ

外観図

（前面）

（背面）

操作部（リモコン）

お使いになる前の準備

製品と同梱品を取り出します

●包装箱から全ての梱包材を取り除き、製品に傷をつけないように取り出してください。
同時に取扱説明書、保証書も取り出してください。

●包装箱や梱包材は保管するときにご利用ください。

灯油について

◉燃料は灯油（JIS１号灯油）を必ず使用してください。

◉変質灯油、不純灯油は、絶対に使用しないでください。

★ガソリン使用禁止

ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。少量の混入でも、火災の原因になります。

ガソリン禁止

●変質灯油、不純灯油（灯油以外の油・水・ごみが混入した灯油など）は、絶対に使用しないでください。異常燃焼や故障の原因になります。

●助燃剤（添加物）は使用しないでください。
異常燃焼を起こすおそれがあります。

灯油とガソリンの見分けかたのポイント

指先に使用燃料をつけて息を吹きかけます
（火の気のない所でおこなってください）

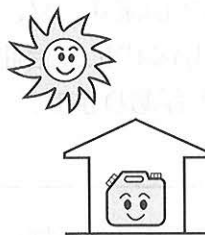
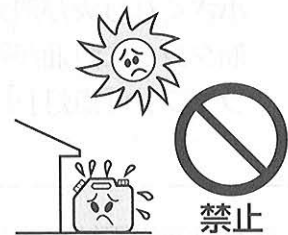
○　灯　油	×　ガソリン
濡れたままです。	すぐ乾いてしまいます。

◉灯油の保管のしかた

●灯油は必ず火気、雨水、ごみ、高温および直射日光を避けた場所に保管してください。

●灯油容器内の灯油が少ないと温度変化により結露して水がたまることがあります。

●灯油の容器は専用のきれいな容器を使用してください。また灯油容器は必ずＪＩＳ認定品で色つきの灯油専用容器を使用してください。

良い保管	悪い保管
直射日光、雨水が当たらず、火気のない冷暗所へ保管	直射日光、雨水の当たるベランダなど、室外の保管
	禁止

変質灯油とは

●古い灯油。（2年以上持ち越した灯油）

●長期間、日光の当たる場所や温度の高い場所に保管した灯油。

●容器のふたが開けてあったり、乳白色の容器で保管した灯油は変質しやすい。
変質のひどいものは黄色味をおびたり、すっぱいにおいがします。

不純灯油とは

●灯油以外の油（ガソリン、シンナー、天ぷら油、機械油、重油など）がほんの少しでも混入した灯油。

●水やごみが混入した灯油。

変質灯油の見分けかた

コップに水を入れ、次に灯油を入れて背後に白い紙をあてます。

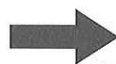
水と同じ無色透明なら正常。

少しでも色がついていたら使用しない。

●変質灯油の見分けかたはたいへん難しいので、メーカーのはっきりしない灯油は使用しないでください。

◉変質灯油や不純灯油を使用すると

●変質灯油や不純灯油を使用しますと、バーナーに多量のタールがたまり、点火しなくなったり、燃焼が悪くなったり、激しいにおいがしたりします。

●水の混入した灯油を使用しますと、炎が小さくなり火が消えてしまいます。又、油タンクに灯油が残っているのに、「給油ランプ」が「点灯」することがあります。

◉万一変質灯油や不純灯油を使ったときの処置のしかた

1 油タンク内の悪い灯油を抜き取り、良質の灯油で内部を2～3回洗ってからご使用ください。
給油口フィルターも洗ってください。
（18、19ページ参照）

2 悪い灯油を抜き取っても効果のないときは、販売店までお問い合わせください。

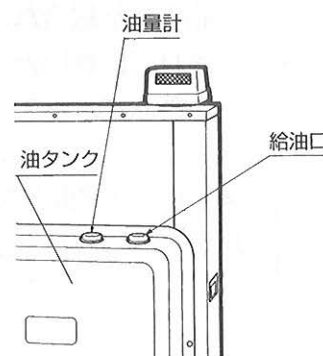
お願い

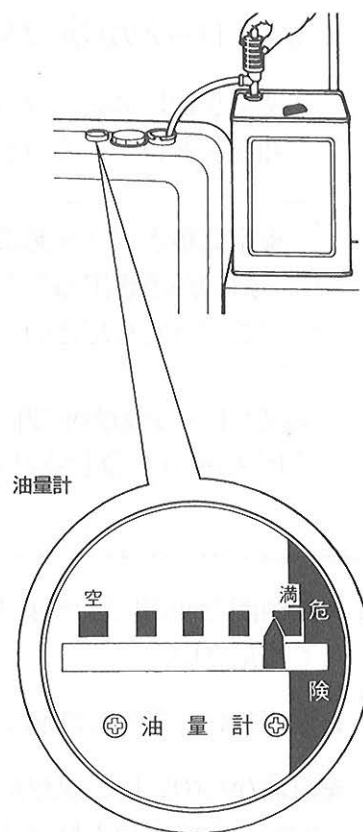
変質灯油や不純灯油が原因でアフターサービスを依頼されたときは、保証期間中でも有料修理となります。

給油のしかた

給油は、必ず消火して、ストーブの温度が充分下がってから、火の気のないところでおこなってください。
火災のおそれがあります。

1 給油口ふたを開ける。

本体の背面にある油タンクの給油口ふたを、左「↺」に回して取りはずしてください。

2 油量計を見ながら給油する。

- 灯油を市販の給油ポンプ等で、油量計を見ながら給油してください。
(ホースが抜けないように注意しながら給油してください。)
- 給油の際は、給油口フィルターを取り去らないでください。
- 給油の際に、水・ごみなどを入れないように特に注意してください。水・ごみなどは燃料不良、ノズルのごみづまり、電磁ポンプの寿命低下などの原因になります。
- 灯油は、油量計の**「満」**の位置まで給油してください。
「満」以上は、あふれ出ることがあり危険ですから絶対に入れないでください。

3 給油口ふたをしっかりしめる。

給油口ふたを、右「↻」に回して、しっかりしめてください。

4 こぼれた灯油はよく拭き取る。

こぼれた灯油は、必ずきれいにふきとってください。危険ですし、燃焼中に臭気を発生する原因にもなります。

- 灯油かんのふたは、必ずしっかりとしめておいてください。

給油の目安　灯油の補給は、油量計が**「空」**を示すまえに、給油してください。

5 ストレーナを確認する。

(1)給油後、油タンクの下部のストレーナを透視して、水やごみなどがたまっていないのを確認してください。
- 水やごみがたまっている場合は、17ページ **日常の点検・手入れ**の ストレーナ の項を参照して掃除してください。

(2)初めてご使用になるときや、油タンクを空にしてから給油された場合など、ストレーナのカップ内が灯油で満たされていないときは、次の方法でストレーナ内の空気抜きをおこなってください。

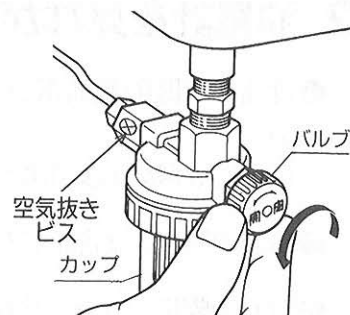
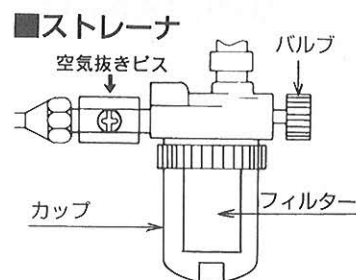
ストレーナ内に空気が入った状態で使用しますと、燃焼ができなくなり、消火してしまいます。

ストレーナ内の空気抜き方法

①ストレーナのバルブを、左「↺」に回して開けます。

②空気抜きビスを、プラスドライバーで左「↺」に回し、灯油がストレーナのカップへ流れるまでゆるめます。

★空気抜きビスをあまりゆるめますと、ビスがはずれて、灯油がふき出ることがありますので充分に注意しておこなってください。

③ストレーナのカップ内が、灯油で満たされたら、空気抜きビスを右「↻」へ回して締めます。

お願い

★長時間ご使用にならない場合は、ストレーナの「**バルブ**」を右「↻」に回して、バルブを閉めておいてください。

★油ぎれした場合には必ずストレーナの空気抜きをしてください。

★灯油かんの底に、水がたまっていることがありますので充分注意してください。
油タンクに水が入りますと、点火しにくくなったり、臭気がでたり、油タンクが錆びたりする原因になります。

点火前の準備

1 水平の確認をする。

●ストーブは、振動のない、水平でしっかりした床面に設置してください。

●傾斜した場所で使用すると、対震自動消火装置の誤作動の原因になります。

2 キャスターのストッパーをロックにする。

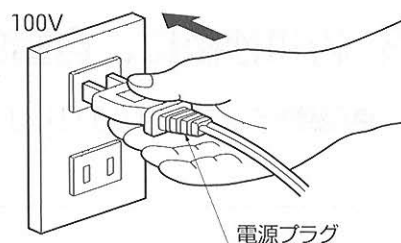
本体前側の２箇所のキャスターはストッパーが付いていますから、ストッパーを押してロックし、燃焼中にストーブが移動しないように固定してください。

3 油漏れがないか確認する。

油タンクや送油管などに、油漏れや油にじみはないかを確認してください。

4 電源プラグをコンセントに差し込む。

●電源は、必ずＡＣ100Ｖ・７Ａ以上の専用コンセントをお使いください。

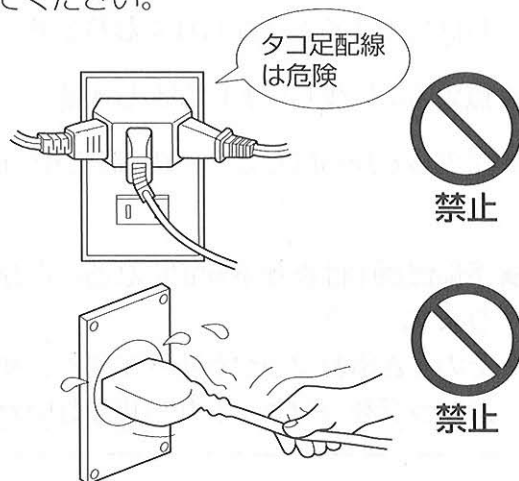
●電源プラグを、コンセントに確実に差し込んでください。

お願い

★電源プラグを、絶対に、200ボルトのコンセントに差し込まないでください。
感電・火災・故障の原因になります。

★コンセントがゆるんでいたり、差し込みが不充分ですと、電源プラグが過熱し、熱変形することがあります。
このようなときは、必ずお買上げの販売店に修理を依頼してください。
お部屋のコンセントも必ず修理してください。

★電源コードに傷を付けたり、束ねたり、折ったり、重い物をのせたり、加工しないでください。
感電や火災の原因になります。

★他の電気器具と同時に使用するときは、ご家庭の安全器（ブレーカー）の容量をこえないようにしてください。

★電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張って抜かないでください。
断線、発熱、発火の原因になります。

5 排気筒を取り付ける。

附属品の**「排気筒セット」**を、別紙の取付説明書を参照して必ず取り付けてください。

6 リモコンを取り付ける。

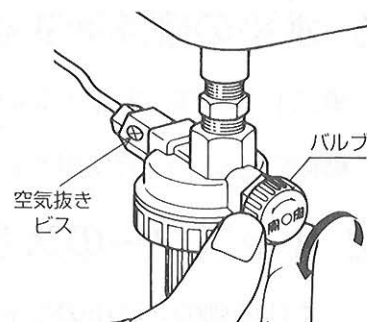
附属品の**「リモコン」**を、別紙の取付説明書を参照して必ず取り付けてください。

使いかた

点　火

1 ストレーナのバルブを開ける。

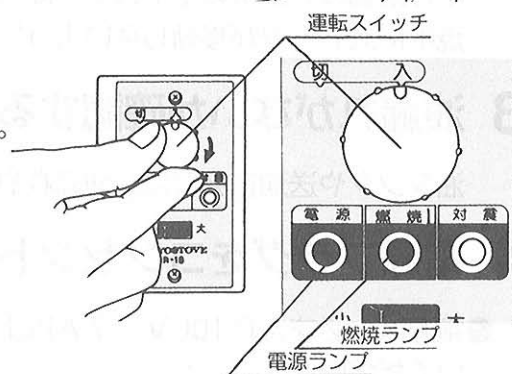
ストレーナのバルブを左「⟲」へ回して、バルブを開けます。

●ストレーナの中に空気がたまっていないことを確認します。
空気がたまっているときには、11ページ（**ストレーナ内の空気抜き方法**）の項を参照して、空気抜きビスをゆるめて空気を抜きます。

2 「運転スイッチ」を「入」にする。

リモコンの**「運転スイッチ」**を右「⟳」へ回して**「入」**にします。

●**「電源ランプ」**が**「点灯」**します。

3 約10秒後に、自動的に点火します。

●**「燃焼ランプ」**が**「点灯」**します。

お願い

★初めて運転するときや、油タンクを空にし給油後初めて運転するときは、ストレーナの空気抜きをしても、送油経路内に空気が入っていて点火できないことがあります。リモコンの**「電源ランプ」**が**「点滅」**し、**「燃焼ランプ」**と**「対震ランプ」**が**「点灯」**します。(運転開始約１分後)
この場合は、**「運転スイッチ」**を**「切」**にし、もう一度、点火操作をしてください。
通常１～２回の点火操作で送油経路内の空気が抜けて点火します。

★点火後すぐは「ゴオー」という音がすることがありますが異常ではありません。
しばらくすると音がしなくなります。

★点火時には少しにおいがあります。

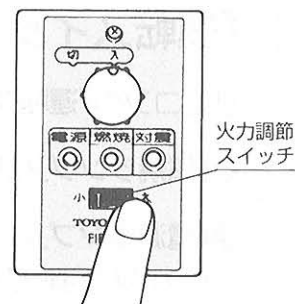
★点火してからはしばらくの間(約５分間)は予備燃焼となります。予備燃焼中は火力調整ができません。

★予備燃焼中は炎が不安定になることがあります。又バーナー底の温度が低いため油がたまり易くなります。
そのとき電源プラグを抜きますと、すすが出たり炎が立ち上がりますので、予備燃焼中は絶対に電源プラグをコンセントから抜かないでください。

⚠注意

点火不良で、何回も点火操作をした後に点火すると、炎が大きくなり、すすが出て異常燃焼します。これは、バーナー内に灯油がたまり、燃焼するものです。
このようなときは、あわてずに、**「運転スイッチ」**を**「切」**にして、たまった灯油が燃えつきるまで待ってください。
電源プラグは絶対に抜かないでください。

火力調節（運転中にしかできません）

●「**火力調節スイッチ**」をお好みに応じて「**大**」⇔「**小**」に切り換えて調節してください。
マイコン制御で連続的にかわります。

●予備燃焼時間中（点火してから約５分間）は火力調節ができません。

■予備燃焼時間：室温が10℃程度→４～５分間
室温が０℃程度→５～６分間

炎の状態（ここに表示した炎の状態は、最大燃焼「大」の状態です）

●予備燃焼終了後に、正常燃焼しているかどうか必ず確認してください。

	炎の状態 （のぞき窓からのぞいて見る）	原　因	処　置
正常	●炎は青炎で、ところどころに少し黄炎が混じっている。 ●バーナーの中央部が赤熱している。	――――	――――
異常 使用禁止	●炎全体が黄炎になって、高く伸びる。	●燃焼用空気が不足している。	●空気取入れ口がつまっていないか確認する。 ●空気取入れ口の掃除をする。 ●販売店にご相談ください。
	●炎が大きくならず、バーナーの中央部が赤熱しない。	●燃焼用空気が多すぎる。	●販売店にご相談ください。

⚠注意

においい、すすの発生、炎の色など異常を感じたときは使用しないでください。運転スイッチを「**切**」にしてください。
異常燃焼のおそれがあります。

使用禁止

消火のしかた

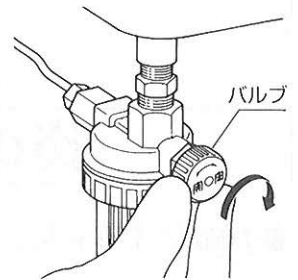
1 「運転スイッチ」を「切」にする。

リモコンの**「運転スイッチ」**を左「 」へ回して**「切」**にします。

●**「燃焼ランプ」**は**「消灯」**します。

●**「電源ランプ」**は消火してからしばらく(約4分30秒)すると、自動的に**「消灯」**し、同時に送風機も停止します。

2 ストレーナのバルブを閉める。

ストレーナの**「バルブ」**を右「 」へ回して**「バルブ」**を閉めます。

お願い

★消火操作をしたときは、**「電源ランプ」**の**「消灯」**とバーナー内の火が消えたことを確認してください。

★緊急の時以外は、消火は必ず**「運転スイッチ」**を使用してください。
電源プラグをコンセントから抜き取って消火することは、絶対にやめてください。
(機器が過熱する原因になります。)

★緊急の時以外は、点火した後すぐ消火することはやめてください。煙がでることがあります。10分間位は燃焼してから消火してください。

消火後再点火するときの注意

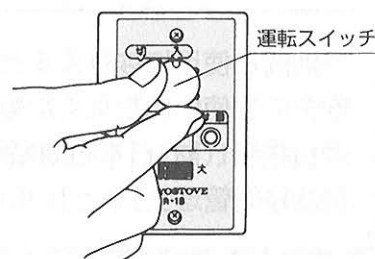
★点火してから2～3分後に**「運転スイッチ」**を回して消火させ、再度**「運転スイッチ」**を回して点火した場合、バーナー内に炎が残っているときはすぐに点火しません。バーナー内の炎が消えてから自動的に再点火します。

★消火操作後**「電源ランプ」**が**「点灯」**していますが、その時に点火操作をしても正常に燃焼を開始します。

★点火操作を何度も繰り返すことはやめてください。

安全装置

★安全装置が作動するのは何らかの異常があるときですから、下記の処置をしても正常にならないときは、お買上げの販売店にご相談ください。

●再点火操作とは、一旦「運転スイッチ」を「切」にしてから、再び「運転スイッチ」を回して「入」にすることをいいます。

安全装置名	はたらき	処置
対震自動消火装置	●運転中にストーブ本体が地震（震度約5以上）や強い振動や衝撃を受けたとき、火災などの危険を防ぐために自動的に運転を停止します。	●地震によって作動した場合、周囲の可燃物、機器の損傷、油漏れなど異常がないことを確認してから、再点火してください。
不完全燃焼防止装置	●換気不良、手入れ不良、その他の異常によりバーナー部への空気の供給が不足したとき不完全燃焼による危険を防止するものであり、自動的に燃焼を停止します。 **この装置は、あくまでも不完全燃焼による危険を防止するためのものです。使用中は必ず1時間に1～2回換気して、新鮮な空気を補給してください。**	●作動した場合は、空気取入れ口の掃除をし、部屋の換気をしてから再点火してください。 （販売店にご相談ください。）
点火安全装置	●バーナーサーミスタの不良による点火不良。 ●点火変圧器・電磁ポンプ・燃焼用送風機などの故障により点火しないときに、運転を停止します。	●何度も再点火操作をしたときは、バーナー底に灯油がたまっています。たまった灯油をふき取ってからご使用ください。 （販売店にご相談ください。）
停電安全装置	●運転中に停電や電源プラグを抜くなどして電源が切れたときは、自動的に運転を停止します。 再び通電されても運転しません。	●再点火操作をしてください。
燃焼制御装置	●燃焼中に炎が消えたとき、自動的に運転を停止します。	●再点火操作をしてください。
過熱防止装置	●異常燃焼などの原因でストーブが異常過熱したとき、火災などの危険を防ぐために燃焼を停止します。	●異常過熱の原因を除いてから、再点火操作をしてください。 （販売店にご相談ください。）

点検・手入れ

定期点検のおすすめ（2シーズンに1回程度）

長期間ご使用になりますと、機器の点検が必要です。機器の寿命をより長く、より良い燃焼で快適に安全にお使いいただくために、２シーズンに１回程度、シーズン終了後などに、お買上げ店、又は修理資格者〔(財)日本石油燃焼機器保守協会(TEL 03-3499-2928)でおこなう技術管理講習会修了者(石油機器技術管理士)など〕のいる店、当社などに点検依頼されることをおすすめします。

日常の点検・手入れ

お願い

★**点検・手入れをするときは、必ずストーブを消火し、電源プラグをコンセントから抜いて、本体温度が充分下がってからおこなってください。やけどや感電をするおそれがあります。**

★部品に触るときや、内部を掃除するときは、手をけがしないように、手袋をはめておこなってください。

★本体をベンジン、シンナーなどでふかないでください。変色します。

★電装品や燃焼部の取りはずし、分解はおこなわないでください。

使用のたびに

周囲の可燃物

●ストーブの周囲は、常に整理、清掃し、燃えやすいものを置かないようにしてください。

油漏れ、油のたまり、油のにじみ

●日常、油漏れや油のたまり、油にじみがあるかどうかを、調べるよう習慣づけてください。万一油漏れによって、油のたまり、油にじみが生じているときは、消火操作をし、原因を確かめ防漏処置をし、油漏れがなくなったことを確認してから点火操作をしてください。

ほこり

●ストーブについたほこりや汚れは、掃除機で吸い取ったり固くしぼった濡れ雑巾などでふき取ってください。

●とくに、本体下部全周にある空気取入れ口に付着したごみやほこりは、異常燃焼の原因になりますので、電気掃除機などで吸い取ってください。

1週間に1回以上

給油口フィルターの掃除

●給油口フィルターがごみやほこりで目づまりしますと、給油時に、給油口よりあふれ出たりします。

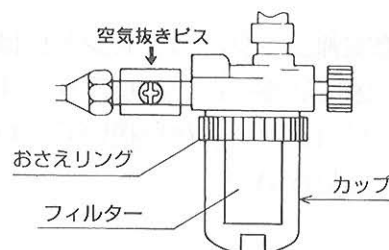
●給油口フィルターを給油口から取り出し、付着したごみやほこりを取り除いてください。

★給油口フィルターは、水で洗わないでください。
必ず灯油で洗ってください。

対震自動消火装置

●燃焼中に、ストーブをゆすって、自動的に消火するかを点検してください。

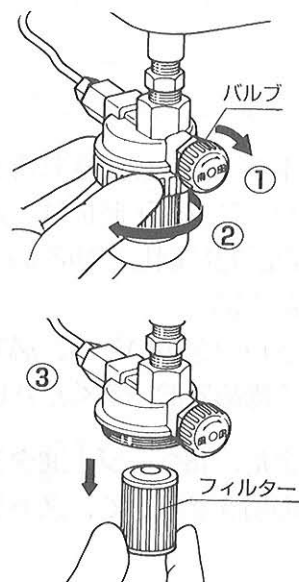
油タンク内の水抜き及びストレーナの掃除

●本体の背面にある油タンク下部のストレーナを点検してください。
水がたまっていたり、汚れているようでしたら、次の方法でストレーナを掃除してください。

ストレーナの掃除方法

①ストレーナのバルブを右「↻」に回してバルブを閉めてください。

②ストレーナのおさえリングをはずしてください。

③カップとフィルターを取りはずし、たまっている水やごみを取り除いて掃除してください。

④ストレーナが汚れている場合は、灯油などで洗ってください。

お願い

★ストレーナの掃除をした場合は、必ずストレーナ内の空気を、11ページ（**ストレーナ内の空気抜き方法**）を参照して、空気抜きをおこなってください。

★空気抜きをするとき、空気抜きビスをあまりゆるめますと、ビスがはずれて灯油が吹き出ることがありますので、充分に注意しておこなってください。

ガードの掃除

●ガードが白く汚れてきた場合は、固めにしぼったぬれ雑巾でふき取ってください。

1シーズンに1～2回以上

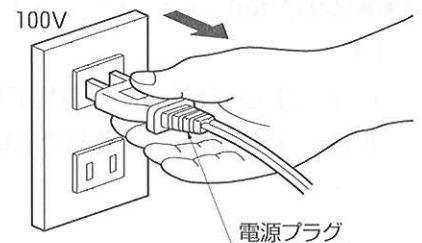
燃焼用送風機の掃除…(販売店にご相談ください)

●1シーズンに1～2回は、燃焼用送風機に付着したほこりの点検をしてください。

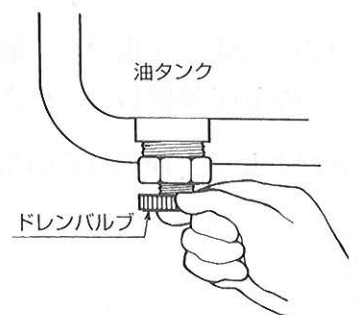
バーナーの掃除…(販売店にご相談ください)

●1シーズンに1～2回は、バーナーの掃除をおこなってください。

電源プラグ、コンセント

●電源プラグ、コンセントにほこりや汚れがたまると、火災の原因になることがあります。1シーズンに1～2回、電源プラグをコンセントから抜いて、付着したほこりや汚れを取り除いてください。

シーズン終了時に

油タンクの掃除

●1シーズン使用されますと、油タンクはかなり汚れます。
シーズン終了時には、油タンク底面にある「ドレンバルブ」を左「↺」に回してゆるめ、油タンク内の水やごみを抜き取ってください。
ドレンを抜いたら、必ず「ドレンバルブ」を右「↻」に回して強く締めておいてください。

●また、18ページ 油タンク内の水抜き及びストレーナの掃除 の項を参照して、ストレーナも掃除してください。

故障・異常の見分けかたと処置のしかた

異常のお知らせ（3個のランプが「点滅」・「点灯」・「消灯」します）

安全装置が作動すると、自動消火します。また、3個のランプが**「点滅」・「点灯」・「消灯」**して故障・異常の原因が表示されます。繰り返し表示するときや運転しないときは、お買上げの販売店へご連絡ください。（販売店へ連絡する場合に、ランプの状態を、下表の**「対比番号」**で連絡していただくと便利です。）

☀：ランプ点滅　●：ランプ点灯　○：ランプ消灯

ランプ表示			点灯（点滅）の意味	対比番号	処置方法
電源	燃焼	対震			
☀	○	○	●停電消火後復帰しました。	0	●再点火操作をしてください。
☀	●	○	●バーナーが予熱不足です。 ●バーナーサーミスタが短絡しています。 ●バーナーサーミスタが断線しています。	1	●お買上げの販売店までご連絡ください
☀	●	●	●点火安全装置が作動しました。	2	●油ぎれの場合には再点火操作をしてください。
☀	○	●	●燃焼中に消炎しました。 ●過熱防止装置が作動しました。	3	●油ぎれの場合には再点火操作をしてください。
○	☀	○	●点火ミスを3回しました。（その後運転スイッチを回しても全く作動しません。）	4	●お買上げの販売店までご連絡ください
●	☀	○	●地震により消火しました。 ●本体を傾けたり強い振動、衝撃が与えられ消火しました。	5	●再点火操作をしてください。
●	☀	●	●O_2センサーが作動しました。	6	●お買上げの販売店までご連絡ください ●燃焼用送風機の掃除をしてください。
○	☀	●	●O_2センサーが断線しています。	7	●お買上げの販売店までご連絡ください
○	○	☀	●燃焼用送風機の回転数が少ない。	8	●お買上げの販売店までご連絡ください
●	○	☀	●燃焼用送風機が回転しない。	9	●お買上げの販売店までご連絡ください

故障かなと思ったときに

原因＼現象	電源ランプが点灯しない	点火しない	白い蒸気が出てとまる	炎が大きくならない	黄火で燃える	使用中室内がにおう	使用中立消えする	燃焼音が大きい	火力調節ができない	処置方法
電源プラグをコンセントに差し込んでいない	○									電源プラグをコンセントに差し込んでください
停電しました	○						○			停電復帰後点火し直してください
対震自動消火装置が作動しました							○			再点火操作をしてください
油タンクに水が入りました(水検知計が作動)		○					○			油タンクの給油口から市販の給油ポンプを差し込んで、油タンク内の水を抜き取ってください
油タンクに灯油がありません		○					○			灯油を入れてください
電磁ポンプのストレーナにごみがたまっています									○	販売店にご相談ください
燃焼用送風機にほこりがつまっています			○		○	○	○	○		掃除をしてください 販売店にご相談ください
換気不良です							○			換気を充分おこなってください
変質灯油や不純灯油を使った			○	○	○	○				変質灯油や不純灯油を良質の灯油に入れかえる 販売店にご相談ください。

●20ページ 異常のお知らせ も参照してください。

部品交換のしかた

●部品交換や修理をお受けになる場合は、日本石油燃焼機器保守協会でおこなう技術管理講習会修了者(石油機器技術管理士)などのいる販売店で修理されることを推奨します。

★不完全な修理は危険です。

★故障したものは使わないでください。

●短時間に消耗する部品は特にありませんが、交換部品が必要な場合は、お買上げになった販売店にご相談ください。

★部品は必ず純正部品(指定された部品)をご使用ください。

★部品を交換するときは、ストーブを消火し、本体が充分冷えてから、電源プラグをコンセントから抜いておこなってください。

保管のしかた(長期間使用しない場合)

★ストーブを保管する場合は、17ページ **点検・手入れ**の項を参照して、ストーブの手入れをしてから保管してください。

★いたんでいる箇所は必ず修理をしてから保管してください。

1 ストーブを消火し、ストーブが充分に冷えてから、電源プラグをコンセントから抜いてください。

2 電源プラグに付着したほこりや汚れを、電気掃除機や固くしぼった濡れ雑巾などで取り除いてください。

3 油タンク内の灯油、ごみ、水気を取り出してください。

●錆や穴あきの原因になります。

4 器具の表面をよくふいて、汚れを取ってください。

●固くしぼった濡れ雑巾や、薄めた中性洗剤液で汚れを取り、乾いた布で水気をふき取ってください。
(シンナー、ベンジン等ではふかないでください。)

5 湿気のないところに保管してください。

●ビニールシートをかぶせて、湿気の少ない所に保管してください。

●傾けたり、横倒しの状態で保管しないでください。
抜けきれなかった灯油が漏れたりして、火災のおそれがあります。

★取扱説明書・保証書も必ず保管してください。

廃棄するとき

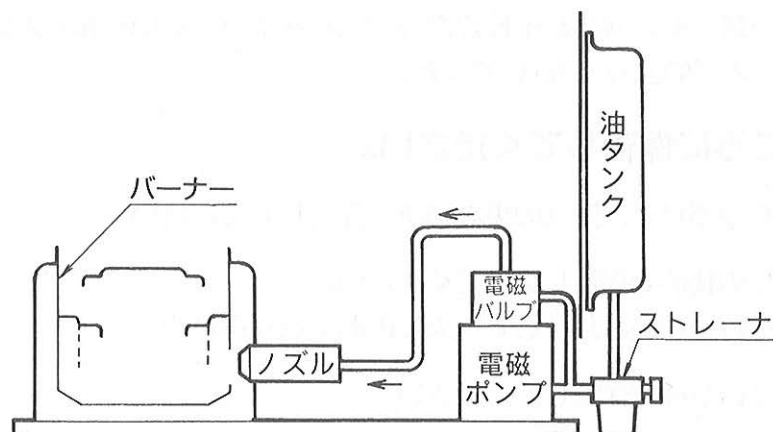
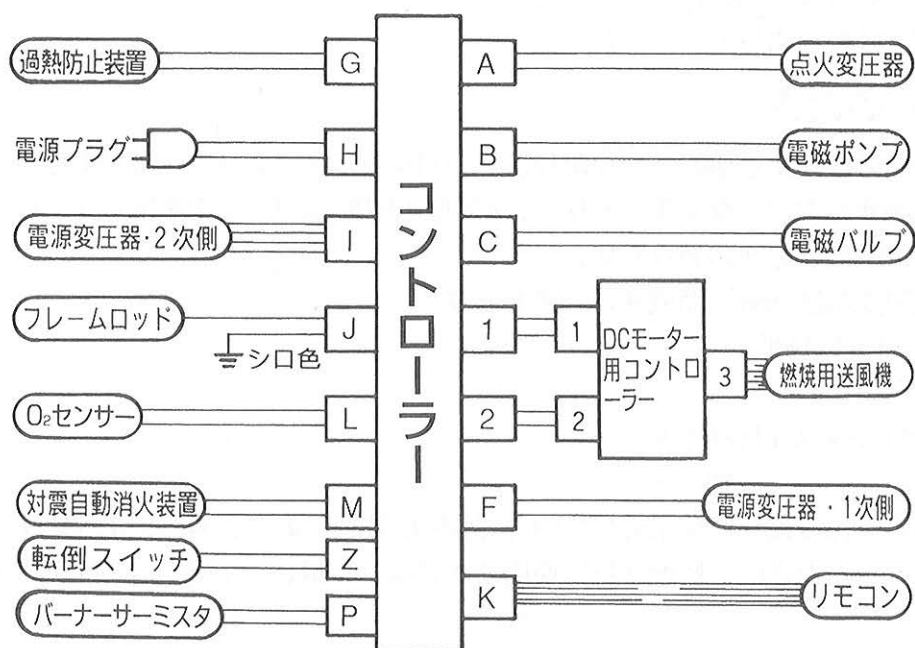
★19ページ **油タンクの掃除** の項を参照して、油タンク内の灯油を抜き取ってから廃棄してください。

仕　様

項目		仕様
型式の呼び		FIR-18B
種類		自然対流･強制通気形開放式石油ストーブ･圧力噴霧式
点火方式		電気点火（100V電源の高圧放電点火）
使用燃料		灯油（JIS1号）
暖房出力	最大	21.0kW
	最小	11.1kW
燃料消費量	最大	2.040L/h
	最小	1.080L/h
油タンク容量		45L
燃焼継続時間		約22時間（最大燃焼時）
外形寸法		高さ1215㎜　幅1250㎜ 奥行528㎜
質量		60kg
電源電圧及び周波数		100V・50/60Hz
定格消費電力	最大消費電力	79/76W（点火初期に短時間発生）
	燃焼時消費電力	49/49W
電流ヒューズ		100V　5A
安全装置		対震自動消火装置、点火安全装置（フレームロッド）、 停電安全装置、不完全燃焼防止装置（O_2センサー方式）、 過熱防止装置、燃焼制御装置
その他の装置		転倒スイッチ
附属品		排気筒セット、リモコン

■送油経路図

■配線図

点検・手入れ・アフターサービス

アフターサービス

保証について

●添付しております保証書は販売店で所定事項を記入してお渡ししますので、お受け取りください。
記載内容をご確認のうえ大切に保管してください。

★保証期間はお買上げの日より1年間です。

修理を依頼するとき

●**故障・異常の見分けかたと処置のしかた**(20ページ)に従って、お調べください。直らないときは、ご使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてから、お買上げの販売店にご連絡ください。

●ご連絡いただきたい内容は次の通りです。

①品名…自然対流強制通気形開放式石油ストーブ
②型式の呼び…FIR-18B
③お買上げ年月日
④故障の状況(できるだけ具体的に)
⑤おなまえ、おところ、電話番号

●修理に際しましては保証書をご提示ください。保証書の規定に従って、販売店が修理させていただきます。

●保証期間が過ぎているときは、修理すれば使用できる場合には、ご希望により有料で修理させていただきます。

●修理料金は、技術料、部品代、出張料などで構成されています。

この取扱説明書と本体に表示されている禁止事項・注意事項および通常使用に反して使用された場合の故障、事故につきましては、保証いたしません。

補修用性能部品について

★石油ストーブの補修用性能部品の保有期間は製造打切り後6年です。

●補修用性能部品とは、製品の機能を維持するために必要な部品です。

転居される場合

●このストーブは電源周波数50、60Hzとも同一仕様です。

★電源周波数の異なった地域への転居でもそのままお使いいただけますが、高地への転居、高地からの転居は再調整が必要ですので、別紙の お客様相談窓口一覧 までご相談ください。

⚠注意

故障・破損したら、使用しないでください。
不完全な修理や改造は危険です。

⚠注意

修理・引越しなどで、ストーブを運搬される時は、必ず油タンクの灯油を抜いてください。
運搬の途中に灯油がこぼれ、周囲を汚すおそれがあります。

故障・修理の際の連絡先

アフターサービスについてわからない場合は、お買上げの販売店、または、もよりの お客様相談窓口一覧 (別紙参照)までお問い合わせください。

FIR-18B 取扱説明書

愛情点検	★長年ご使用の石油ストーブの点検を！			●石油ストーブの補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後6年です。
	ご使用の際このようなことはありませんか	●油漏れする。 ●点火時に白煙が出る。 ●強いにおいがする。 ●炎が異常に黄色い。 ●予熱時間が異常にながい。 ●運転中異常な音がする。 ●その他の異常・故障がある。	ご使用中止	故障や事故防止のため、コンセントから電源プラグを抜いて、必ず販売店に点検・修理をご依頼ください。

お客様へ…おぼえのために記入されると便利です。

型　式	FIR-18B	お買上げ年月日	年　月　日
お買上げ店名	（電話番号）（　　）　－		

株式会社トヨトミ

本　社　名古屋市瑞穂区桃園町５番１７号
〒467-0855　TEL〈052〉822-1144
FAX〈052〉822-2742